

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
かがやく大野原っ子の育成 ～人間性豊かで、自ら学ぶ児童生徒の育成～	(1) やる気いっぱい・・・確かな学力の定着と向上を図る。 (2) 笑顔いっぱい・・・思いやりの心、豊かな心を育てる。 (3) 元気いっぱい・・・元気で健やかな心身を育成する。 (4) わくわくどきどき(交流体験)いっぱい・・・地域愛に満ちた、豊かな人間性や社会性を育てる。

3 目標・評価  
(1) やる気いっぱい・・・確かな学力の定着と向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	・ICTを利活用した授業実践の深化	・児童生徒の学習内容の理解を深めるために、ICT機器を効果的に活用する。	・ICT機器利用の研修会を年間2回行い、スマホ等を組み合わせた多様な使い方についての技術向上を図る。 ・ICT機器の利用についての情報交換を積極的に行う。 ・授業研究でICT機器を活用する。
		・めあてとまとめの明確化 ・自分の考えを説明する場 ・個に応じた適切な支援	・「授業がよくわかる」と答える児童生徒の割合を90%以上にする。	・常に「めあて」と「まとめ」が対応した授業実践を徹底し、個に応じた手立てを取り入れた授業を行う。 ・ペア学習の工夫や説明する場を取り入れた授業を行う。
		・学習規律の徹底 ・支持的な学習環境づくり	・「毎日忘れ物をせず、授業前に学習用具を準備して待つことができる」児童生徒の割合を90%以上にする。 ・児童生徒が相手の意見や存在を尊重し、お互いに認め合う関係作りに取り組む。	・帰りの会の中でも、持ってくる物の確認をさせる。 ・授業開始2分前には席に着き、学習用具を机上に準備して待つように指導する。 ・友達が発表している時に、同調するときは、うなずかせる等、発言しやすい雰囲気をつくる。 ・学習に関連した掲示物の充実を図る。
		・家庭学習・読書の習慣化と質の向上	・「宿題以外にも自分で考えて家庭学習を行っている」児童生徒の割合を80%以上にする。 ・1週間に小学生低学年は6冊、中学年は4冊、高学年は3冊、中学生は2冊以上、図書室の本を借りるようにする。	・「自主学習の手引き」などを活用して学習指導を行う。 ・継続的に家庭生活アンケートを行い、学習や生活の実態を把握する。 ・がんばっている児童生徒の表彰や自主学習ノートの展示会等を行い、学習意欲を高める。 ・多読賞の表彰や読んだ本の掲示、読書時間の調査を定期的に行う。

(2) 笑顔いっぱい・・・思いやりの心、豊かな心を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめの問題への対応	・互いを尊重しいじめを許さない学校風土の醸成	・相手の立場を尊重し、互いに助け合い励まし合う人間関係の定着を目指す。	・前年度に引き続き、全職員でいじめ防止にあたり、「先生あのおね」や教育相談活動を定期的に行う。 ・様々な人権問題を題材に、集会や職員研修を行い、児童、生徒、職員の人権意識の向上を図る。 ・生徒指導上の諸問題に関するケース検討会などの職員研修を開催する。
	●心の教育	・道徳教育の充実、道徳的心情、判断力、実践意欲の育成	・道徳の授業で人とのより良い関わり方を学び意識して生活している児童生徒の割合を90%以上にする。	・複式学級における道徳の教育課程の編成や授業内容を工夫し、授業の充実を図る。 ・年間計画をもとに、見通しをもって「考える道徳」の授業実践に取り組む。
	○多様な交流活動の充実	・集会活動、交流活動、ボランティア活動等の児童・生徒会活動の活性化	・児童会活動と生徒会活動を統合し、諸活動の効率化と活性化を図る。 ・昨年度同様、地域や他校との交流活動を積極的に行う。	・大野原小中独自の新しい児童生徒自治組織「あすなる会」の活動を活性化するために、小中の時間割やカリキュラムの調整を行う。 ・全校児童生徒が「あすなる会」に属することとし、規約を見直し(児童にも分かりやすい文章の規約を作成)、オリエンテーションを開く。 ・児童生徒自身が企画・運営する行事や集会を積極的に行い、自主性と愛校心を育てる。 ・様々な交流活動について活動を精選し、一つ一つの活動にじっくり取り組めるようにする。
	○特別支援教育	・困り感をもった児童生徒の情報共有、計画に基づく支援 ・家庭・関係機関との連携	・児童生徒の困り感を察知できるように努める。 ・困り感を持った児童生徒への支援が上手くいくように、職員の共通理解を図り、計画的な支援に努める。 ・保護者との連絡を密にする。	・児童生徒対象に月1回アンケート調査を行い、子供達の悩みに対応する。 ・特別支援学級の児童生徒については、個別の指導計画及び個別の支援計画を作成し、成長や変容を見ながら、保護者と連絡を密にして支援を適切に行う。 ・職員の共通理解を図る。 ・保護者からも家庭での様子を伝えてもらい、必要な場合には、外部機関と連携して児童生徒の支援にあたる。

(3) 元気いっぱい…元気で健やかな心身を育成する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○基本的な生活習慣の定着	・さわやかな挨拶と返事、場に合った礼儀 ・丁寧な掃除の定着	・立ち止まって挨拶することができる児童、生徒の割合を80%にする。 ・大きな声で返事ができる児童、生徒の割合を80%にする。 ・すみずみまで丁寧に掃除をすることができる児童生徒の割合を80%以上にする。	・挨拶運動や日常生活で挨拶の臨場指導、率先垂範を日常的・継続的に行っていく。 ・本校の実態を情報共有し、授業中の返事、立ち止まって挨拶の徹底を職員全体で共通理解する。 ・年度当初に全校で清掃オリエンテーションを行い、清掃の仕方や大切さについて指導をする。 ・清掃道具の見直しを行う。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣の定着 ・健やかな体づくりの推進	・早寝早起き朝ご飯、歯磨きの充実に取り組む。 ・朝食喫食率100%を継続する。 ・児童生徒全員で残菜ゼロに取り組む。 ・体育の授業や朝の活動に積極的に取り組み、気力、体力の向上を図る	・半期に一度、早寝早起き朝ご飯の調査を行い、できていない場合はお便り等で啓発を行う。 ・歯科校医と連携し、市の歯磨き指導も活用しながら、歯磨き指導を充実させる。 ・給食は残菜ゼロを継続させる。メニューによっては時間を費やす児童が多いので、家庭にも呼びかけていく。 ・外遊びを勧め、体育や朝の活動を通し、体のバランス等技能の向上につなげる。
	○心身の育成に係る環境整備	・健やかな体づくりに係る教育環境の整備	・体育施設の環境の整備に努める。 ・適正な社会体育活動や部活動の運営に取り組む。	・グラウンド、体育館、プールなどの施設の安全点検を確実にを行う。 ・嬉野市教育委員会からの「部活動の在り方に関する方針」に沿って、円滑に部活動等を実施できるように努める。 ・適切に休養日を設定・実行する。
(4) わくわくどきどき(交流体験)いっぱい…地域愛に満ちた、豊かな人間性や社会性を育てる。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●志を高める教育	・地域人材を効果的に活用した教育活動の推進	・さまざまな機会をとらえて、地域住民と児童生徒との交流を行い、大野原の児童生徒は大野原地区で育てるという機運を高める。	・もち米作り、茶園作業、バイオリン教室、その他の教育活動において、地域住民と連絡を密に行い協力してもらう。 ・児童生徒のために、地域の人に関われることはないか模索しながら、地域人材を活用した教育活動を推進する。 ・学校行事等で地域住民との交流や感謝の気持ちを伝える場を設ける。
		・地域愛を育む豊かな体験活動の充実	・郊外でボランティア活動を実施することにより、この大野原の一員としての自覚を持ち、地域をよりよくしようとする心情や態度を育てる。 ・学校行事に地域の人を招いたり、地域行事に参加したりすることにより地域の人との交流を推進する。	・おもいやいプラザの一層の充実(掲示物等)と、地域への周知を図る。 ・夏季休業中の空き缶・空き瓶回収や、12月の学校周辺のゴミ拾いを実施する。 ・敬老会への訪問演技、餅つき会への招待、中学生への秋祭りへの出店などを実施する。PTA、老人会、農業指導者との連携については、活動を継続するための方法について検討し改善していく。
		・望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育の推進	・児童生徒に望ましい職業観・勤労観を育む。 ・児童生徒が2030年における(グローバル化、人工知能の発達による職業の変化)を生き抜くために身につけさせるべき資質とは何かを探る。	・中学2年生で行う職場体験を中心に据え、事前・事後の学習を充実させていく。 ・進路コーナーの掲示の仕方の工夫やの掲示物の充実をはかる。 ・中学生全員に進路希望調査をし、将来への夢を意識させる。 ・新しい進路指導の在り方を職員が研修して学ぶ。また、明確な目標が持てるように、高校卒業後まで意識した進路指導を行う。
	○危機管理	・安全・安心な学校づくり ・危機管理体制の整備	・施設の安全面に十分配慮し、生活事故を未然に防止する。 ・教育相談体制を整備し、児童生徒が安心して生活できるようにする。 ・教職員の危機管理意識の向上を図る。	・危険を回避するための月1回の安全点検を確実にを行う。 ・年3回の教育相談週間を設けるほか、児童生徒とゆっくり向き合って話す時間を設定する。相談したいことは、あらかじめ整理しておく。 ・困り感をもった児童生徒が迷わず相談できるような学校風土づくりを行う。 ・危機管理マニュアル、消防計画についての共通理解を行い、定期的に読み合わせを行うことにより、緊急時の対応力を高める。 ・毎月10日を自己チェックの日と定め、定期・臨時に事例を用いて情報提供と対応策を図る。 ・通学・通勤路の道路状況等の自然災害に対する防災意識、防犯意識を高めるために、日頃から保護者・児童生徒・職員に対し注意喚起を行い、随時メール配信を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務の効率化 ・子どもと向き合う時間の確保	・文書処理を効率的に行っていると答える職員を85%以上にする。 ・仕事にやりがいを感じていると答える職員を85%以上にする。	・校務サーバの運用方法を改善し、資料の参照や作成に係る文書処理を効率化する。 ・会議資料の事前検討や配布を確実にを行い、会議時間を遵守する。 ・学校行事については、月別に集約し、見通しが持てるように改編することで、行事や生徒指導に主体的に関わっていける環境づくり、職員のやりがい形成を図る。	